

## ☆（SCENE）地域で学ぶ、わたしの選択

朝日新聞 2019年5月29日

[https://digital.asahi.com/articles/DA3S14035063.html?iref=pc\\_ss\\_date](https://digital.asahi.com/articles/DA3S14035063.html?iref=pc_ss_date)

> 人工呼吸器やたんの吸引などを日常的に必要とする「医療的ケア児」が医療の進歩により、自宅などで過ごせるようになっている。そのような子たちが地域で暮らす中で、直面する壁の一つに「教育」がある。

川崎市の市立中学1年の小関リナさん（13）は、脳性まひやダウン症があり常時、胃ろうやたんの吸引などのケアが必要だ。特別支援学校は自宅から車で20分余りかかる。「何より地域の学校に」。母親のかおりさん（50）は6年前、リナさんを校区の市立小学校に通わせることを決めた。

市は当初、受け入れ態勢が整っていないことからリナさんの校区の小学校への入学に難色を示した。かおりさんは市などに環境の整備を訴え、入学を認められた。6年間で徐々に学校への看護師の配置や訪問などが整い、卒業後も校区の中学校へ通えるようになった。

□

4月、中学校の入学式。真新しい制服姿で校内の桜並木を通るリナさんの周りには、小学校時代の顔見知りもいたし、初めて見る同級生もいた。「小学校でたくさんの友だちに囲まれて、リナもたくましくなった。体調を崩すことも減った。にぎやかな環境や子どもたちの力が、中学でも彼女に影響を与えると信じています」

「医療的ケア児」を育てる家族の中には、校区の学校への通学をあきらめる人も多い。「障害がある子どもも学校を選べる環境が広がって欲しい。それが本当の意味での『共生社会』だと思います」。かおりさんはそう願う。

…など伝えています。

中学校の入学式の朝、真新しい制服に袖を通す小関リナさん（右）。  
母親のかおりさんは、「ネクタイの締め方に慣れず時間がかかりました」  
＝4月5日、いずれも川崎市



入学式終え、担任教師（後方左）と校内を歩くリナさんとかおりさん＝4月5日



小学6年生の放課後。帰り際に友だちが集まりほほえむリナさん  
（左から2人目）＝2018年4月

△関連Web報道…… 医ケアネットHP 最新情報 2018/03/16 <WEB報道など>部分より

<http://www.mcnet.or.jp/new/srh.cgi?act=list&page=4>

☆障害児の母 請願結実 川崎市、小中学校に看護師 上限撤廃

東京新聞 社会 2018年2月27日 朝刊

> 川崎市は新年度から、たんの吸引など医療的ケアの必要な子どもがいる市立小中学校などに、看護師が常駐できるようにする。現行制度では、看護師の学校巡回は子ども一人につき一週間に最大三時間だが、この上限を撤廃し、子どもに付き添う保護者の負担を軽くする。医療的ケア児が増える中、ケアが必要でもわが子を地域の学校に通わせたくて、付き添いを続けてきた母親の願いが実を結んだ。

…などと伝えています。

△医療的ケア児支援強化 川崎市

(カナロコ by 神奈川新聞) - Yahoo!ニュース 2/19

> 川崎市は2018年度から、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアを必要とする子ども（医療的ケア児）が地域の市立小中学校に通いやすくなるよう、看護師の巡回事業を大幅に拡充する。親の付き添いの負担軽減へ向け、必要と判断されれば看護師が最大で週5日、1日何回でも巡回する。子どもが学校にいる平日は看護師がケアできるようになる。

…などと伝えています。 関連報道も含めワード編集で

<http://www.mcnet.or.jp/download/pdfdata/20180219%20kanagawa%20news.pdf>

\*医療的ケア児 校内看護「やっと拡充」 保護者の声、市が実現へ

タウンニュース 川崎区・幸区版 2018年3月16日

<https://www.townnews.co.jp/0206/2018/03/16/423777.html>